

漁業村落の変容過程

—三重県志摩の事例を中心に—

名古屋大学 中 田 実

一、共通課題「土地と村落—土地利用秩序と村落の土地管理機能—」の問題意識

(1)、八四年大会までの諸論点とかわかって

高橋正郎の整理

- ・村落を把握しようとする農政の論理
- ・対象とされている村落そのものもつ論理の解明

生産力の単位・利用と所有の分離

共同体的—機能的把握

- ・農政と村落の接点における両者の関係の論理の解明

支配の論理

村落の生産・生活の論理(機能)

不整合関係の解明↑自治体

「農民の自立・自覚」(自由度)が変動する中で統一化

(2)、八五年第一回研究会の論点とかかわって〔研究通信No.100〕
論点の土地問題への収斂……土地利用秩序の実態と形成

・所有(私的)になじ
まなない土地

資本主義的利用
市民的生存権保障

公権力介入の
性格

・現在
生産力発展
自然生態系維持

個別経営の「自己完結性」の維持
困難―村落の意味

・「問題解決地域」の実態(辻 雅男)

①市町村自治体 ②農協 ③生産組織 ④土地改良区

⑤ムラ(集落) ⑥①―⑤の広域連合体

・基本に「私権の社会的規制」―「地域土地利用計画」策定・
実行力があること

ムラ自治・「自治」と「共生」・生存権保障のシステムの
現状、可能性、自治体との連動の可能性(Mackler, Dahl
etc.)

(3)、漁村からのアプローチの意味と限界

水域の共同利用の性格(公有制)―共同漁業権、区画・定置の
占用権、採取段階性―生産力||資源管理力、生産主体||漁場管
理主体、漁協の性格の変化とムラの解体―漁政との関連

(4)、志摩漁村の動向と地域の概況

川越淳二「志摩漁村の研究―序説覚書(1)―」『愛大文学論叢』

二七、六四年

牧野由朗「漁業協同組合の性格と変容」『社会学評論』六八、

六七年

後藤和夫「沿岸漁業村落の階級(階層)構造と漁民層の性格」

『村落社会研究』六、七〇年

後藤和夫「一九六〇年代における―沿岸漁業村落の変容」『奈

良女大文学部研究年報』二四、八一年

中田 実「真珠養殖業の導入と沿岸漁村の変容」『愛大文学論

叢』三二、六六年

中田 実「戦後における真珠養殖業の発展と沿岸漁村の変容」

『同上』三三・三四、六六年

中田 実・後藤和夫「漁村社会研究の諸問題」『ソシオロジ』

六四、七五年

二、漁場利用秩序と村落―志摩町御座―

(1)、沿岸漁業不振と漁協機能集団化の困難

(2)、漁場利用秩序の動揺と漁協

三、漁村社会の再編と漁場管理―大王町船越―

(1)、地域開発と漁協

(2)、船越自治会の結成と展開

四、漁場管理と漁業村落―まとめ―

(1)、開発・環境政策との関連

(2)、生産力の発展と資源保護の主体形成